

## 議事録

1. 会議の名称 池田市発達支援システム検討委員会
2. 開催日時 令和6年11月29日（金）午後2時～午後3時
3. 開催場所 池田市中央公民館2階 会議室B
4. 出席者 《委員》 片山委員長、佐藤副委員長、嶋岡委員、稻垣委員、井根委員、田本委員、上西委員、乾委員、安田委員、（欠席）平山委員、竹内委員  
＜事務局職員＞ 衛門子ども・健康部長  
(発達支援課) 田中課長、森田主幹、原田主事  
(障がい福祉課) 西村副主幹
5. 議題 (1) 池田市における中核機能の整備について  
(2) 各委員からの案件について（意見交換）
6. 議事経過 別紙
7. 公開・非公開の別 公開  
※非公開の理由
8. 傍聴者数 0人
9. 問い合わせ先 池田市 子ども・健康部 発達支援課  
(072) 752-1111 内線185  
(072) 754-6102 (ダイヤルイン)  
E-mail h-shien@city.ikeda.osaka.jp

## 議事経過

発言者	発言の要旨
事務局	○開会 (部長挨拶、出席状況など報告)
事務局	案件(1) 資料1(スライド1～21)に基づき説明
委員長	やまばと学園として、移転後の方向性については概ねよいか。
委員	学園として、職員と専門知識がゼロのところからスタートする。移転までにかなり職員を充実させ、知識・ノウハウ・スキルを高めていかないと、移転＝開始とならない。大事なお子様をお預かりするので、責任をもって専門性を活かした療育を提供したい。それにはかなりの実地研修と連携が必要と感じている。
委員長	ゼロからなので具体に落としていかないといけない。人材育成、人材確保の財源をどうするか展望が必要となる。市民からの切実なご要望として、移転すると通うことが大変になる件は、移転までに解決することとして考えていってほしい。
事務局	欠席の委員からのご意見を受け、事前送付した資料に、要望、4つの事業所の要件に関する比較評価を追加した。また、やまばと学園の機能拡充はうれしく思う。通園バスに乗ることが難しい子どももいるので、介護タクシーの利用なども考えてほしい。継続的な外来リハの対象年齢の質問があり、18歳までを考えている。やわらソレイユは多機能的に事業を行っているし、いろいろな所と連携をとって支援しているというので、よいのではないかというご意見があった。
委員長	加えると、設計の段階から保護者の意見を聞く機会をいただきたいという声もある。市の事情もあると思うが、そういう機会を設けてほしい。私から気になるところとして、一旦、法改正に伴い、中核機能強化するにあたり、池田市としては児童発達支援センターやまばと学園を中核拠点として強化する方針を立てた。ただし、移行期は、面的整備として重心児を受け入れているやわらソレイユと連携する。中核

	拠点としてやまばと学園がスタートするときには面的整備をやめると いうことで間違いないか。
事務局	オープンする時点でどうなっているか見通せないのでタイムラグは生 じるかもしれないが、あくまで、移転してオープンするまでの間、補 完的な機能として中核機能強化事業所加算を利用する。
委員長	心配しているのは、一旦、事業所加算をとって進めているときに、加 算が切られて問題にならないか。
事務局	加算を選定する段階で、そこも前提として受け付けていただける所に限る。
副委員長	やまばと学園の移転まで4～5年という計画だったと思う。その後は、 18歳以下の対象、医療的ケア児5～6名を全員受けてもらえる？
事務局	全員がやまばと学園入園を希望されるかは分からない。
副委員長	18歳以降もりハビリを続けて受けたい方もいらっしゃると思うが、 その場合は、中核機能強化事業所加算の事業所で受けるのか、それと も拠点のやまばと学園になるのか。
事務局	センターも事業所も、対象は18歳までになる。それ以降となれば、 障がいや保険、医療での受け入れを考えることとなる。
委員長	この件とは別としても、当事者とすれば切実な話である。引き継ぎの 部分を初めから考えておきたい。発達支援課が作ってくださっている 池田市発達支援 Mapなどを使っていただき、案内をし、しっかりつ ないであげられるようにしてほしい。前回、公募するような話があつ たが、今回、要件を見直していただいたところ、公募する必要はない ということだった。比較はこのような形でされているが、やわらソレ イユ以外の事業所は、中核機能強化事業所が検討されていることをご 存知ないと聞いている。このことについて委員の皆様と共有したい。
事務局	案件（1） 資料1（スライド22～）に基づき説明

委員長	移転後にやまばと学園で中核機能を発揮するための人材育成、指導を担っていただけるならば、スムーズに、普段からコミュニケーションがとれる体制になっていくのではないか。
委員	学校では、就学前からきちんと準備できていればよいが、受け入れてからいろいろ整えていくのが現状である。教育委員会に看護師が正規職員でいるわけでもなく、いろいろな所にお知恵を借りながら体制を作る。市として相談できるところがなかなかなかったが、以前、医療的ケア児・者部会を作っていただき、やわらソレイユや箕面支援学校が参加しておられ、協力を求めた。やまばと学園のように市の中でそういう機関ができると、就学前から情報をもらえたり、保護者が行きやすくてよいと思う。家庭のみで抱えているところもある、遠方であればあるほどそう。学校で受け入れ体制を整えるときに、やわらソレイユにお世話になった。遠足や校外学習、宿泊行事があると、学校での安全だけではなく、移動やいろいろなことを考えないといけない。体制を整えるため、普段は学校看護師2名に加えて、まだ看護師が必要となる。サービスエリアの15分休憩に痰吸引やおむつ交換を行う。いかに安全に効率的にするかとなれば頭数も必要となる。普段は派遣看護会社に頼むところを、校外学習の際、やわらソレイユに通う児童について、業務に支障なければ協力、同行するというお答えがあり、学校も安心した。結局は校内で体制がとれたこと、日程が合わず、実現はなかったが、快くお返事がもらえた。クッション調整ひとつで痰の出やすさや関わる者の負担軽減につながり、教員のサポートできない部分を専門の所と連携できることは心強い。
委員長	逆に、今までなかったのが不思議なくらい。実は、同級生が池田市で最初の養護学級を開設した方の一人である。40数年前の話で、やっぱり手探りで、修学旅行もたくさんの人をかけていた。これからそういう形が公的に整っていくかと思う。
委員	令和3年に医療的ケア児支援法も施行され、保護者付き添いが当たり前ではなく、学校で連れていくという体制をとっていく。
委員長	以前にさまざまな案件があがってきたことも承知している。こういった形で整えていけるのはよい。

	案件(2) 意見なし
事務局	貴重なご意見いただき誠にありがとうございました。今回の検討委員会の中で、やわらソレイユの中核機能強化事業所加算について概ね了承を得たという認識でよろしいか。これで今後の手続きの方を進めていきたい。また、本日の議事録については、また委員長と調整の上、市のホームページにも公開させていただく。本日はどうもありがとうございました。